



新型コロナウイルス感染症の 治療薬について

10月から患者様負担が生じます

今まで新型コロナウイルスに感染し、症状が重い方や重症化リスクの高い患者さまに対して処方されていた薬(経口薬のラゲブリオ、パキロビッド、ゾコーバ、点滴薬のベクルリーなど)は、全額公費負担となっており患者さまの負担はありませんでした。ですが、公費支援の見直しが行われ、10月からは医療費の自己負担割合に応じて、以下の通り患者様の自己負担が発生します。

入院医療費の負担も見直しへ

10月からは入院医療費も見直されます。今までは1か月あたりの入院医療費の自己負担から最大2万円が公費支援されていましたが、最大1万円へと変更されます。

段階的に通常体制へ

このように、公費支援や体制の変更については感染拡大の状況や医療体制を見ながら検証、見直しが行われており、国の方針では段階的に移行を進め、来年4月からは通常体制へ完全移行することを目指しています。患者様の負担が増加することで、受診を控える人が増え、感染の拡大につながるのではという不安な声も聞かれています。大事なことは感染を未然に防ぐことです。感染により重症化するリスクの高い高齢者や、基礎疾患を有する方は3蜜を避け、自分の身体は自分で守ることを意識しましょう。

10月から

3割負担の方	9,000円
2割負担の方	6,000円
1割負担の方	3,000円

自己負担割合に応じて
治療薬の薬剤費負担が
発生します

インフルエンザワクチン予約について

感染症対策のため**窓口での接種予約は行いません。**
電話予約のみ受け付けますので、お電話でお申し込み下さい。

☎ 0146-42-0701



Inkar - インカラ - vol.51



- TOPICS -

院長の独り言
新型コロナウイルスなぜ変異するの?
治療薬について
インフルエンザワクチン予約について

インフルエンザワクチン接種の電話予約は16日からです

医療法人 徳洲会 日高德洲会病院

〒056-0005 北海道日高郡新ひだか町静内こうせい町1丁目10番27号

☎ 0146-42-0701

院長の独り言

働き方改革による医療の課題

世の中はいろいろな職種に「働き方改革」の波が押し寄せています。はじまるのは2024年ですから、ほんの目と鼻の先です。自動車運転業務では、年間時間外労働時間の上限が960時間に制限されます。長時間労働が常態化していたドライバーの労働環境はよくなりますが、運べる荷物の量が減りますので、運送・物流業者の売上・利益だけではなく、運転手の収入も減ります。宅配便が届くまでの日数も延びるでしょう。建設業では、36協定を締結すれば「月45時間、年360時間」までの時間外労働が可能となります。しかし、それでも今までよりは、工事現場で働くことのできる時間が大幅に減りますので、工期が大幅に遅れることが予想されます。日高徳洲会病院はこれから新築移転の工事が始まりますので、この問題は他人事ではないのです。



医療業界も例外ではありません。2024年から時間外労働は年960時間以下で、月100時間未満となります。救急医療など緊急性の高い医療を提供する医療機関でも、年1,860時間以下で、月100時間未満に規制されます。そして連続勤務時間制限28時間・勤務間隔9時間の確保・代償休息のセットが課されます。ここでみなさんに影響があるのが時間外の受診です。

地域と共に歩む病院

日高徳洲会病院

夜や週末の時間帯の勤務は宿日直勤務と呼ばれますが、厚労省の考え方は労働者の健康を害しない範囲の勤務を特例的に認めるというものです。つまり俗に言う「寝当直」のイメージであり、これまで慣例的に用いられてきた、夜間に救急車や時間外に受診する患者さんの対応を行う「当直」は「宿日直」にはあたらないと考えられます。当直中に診察をしてもいいのですが、それは特殊な措置を必要としない軽度または短時間の業務に限られます。時間外も通常と同じ医療を行うためには、「宿直」ではなく「時間外勤務」の医師を配置しなければなりません。そもそも地域の医療機関では医師数が少なく、人件費が膨大になってしまうので、現実的には不可能です。国が進めようとしている医療の働き方改革をそのまま実施しますと、医療者は健康になるとは思いますが、時間外に病気になったり、怪我をしたりした場合には、まともな医療を受けられなくなるかもしれません。でもいまだに、政府からそのようなアナウンスは一切聞こえてきません。おそらく、これまでのように課題を曖昧にしたままで2024年が始まってしまうでしょう。今の医療水準を維持するためにどうすればいいのか、皆で知恵を出し合う必要があります。



新型コロナウイルス なぜ変異するの？

新型コロナウイルスの世界的流行により
多く聞かれるようになった “変異株” とは



変異とは遺伝情報の変化

新型コロナウイルス感染症が流行を始めた2020年以降、アルファ株、ベータ株、ガンマ株と様々な変異株の出現が報じられてきました。現在は『オミクロン株』が変異したXBB系統が主流となってきており、新型コロナウイルスは変異を続けています。では、なぜウイルスが変異を繰り返すのかというと、自然界の変化する環境に適応するための生存戦略だと言われています。

ウイルスは細菌とは違って自ら栄養を摂取し、エネルギーを生み出すことができません。栄養や水があったとしても自分だけでは増殖できないのです。そのため人間や動物など他の生物の中に侵入し、自らをコピーをしていくことで増殖しようとします。そして、増殖の際には遺伝情報がコピーされますが、コピーを繰り返すうちに一定の確率でコピーミスが生じ、遺伝情報が変化することがあります。このコピーミスが【変異】と呼ばれており、この変異したウイルスが変異株です。

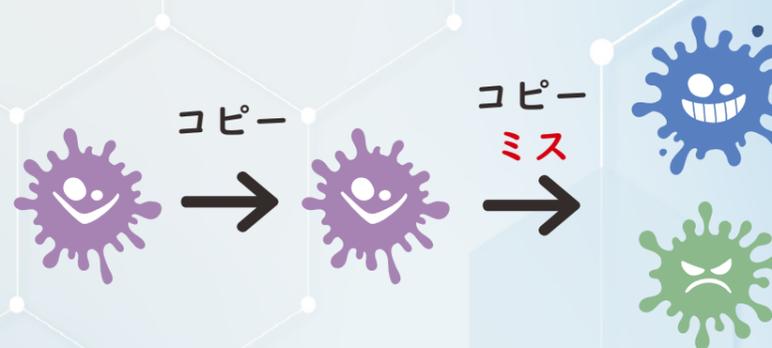
性質が変化すると急拡大も

仮に遺伝情報が変化しても、その性質自体にあまり関係のない変異だった場合は大きな問題にはなりません。しかし、小さな変異でもウイルス情報の重要な部分が変化すると感染の急拡大に

つながる恐れがあります。感染力の強い変異株が発生すると、次第にその変異株に感染する割合が増えてきて、最終的にはほとんどが置き換わってしまいます。アルファ株、ベータ株、ガンマ株と様々な変異を繰り返し、現在はオミクロン株が主流になっていることを考えると、コピーミスと言われていますがウイルスが進化しているといってもいいかもしれません。

ウイルスは変異し続ける

ウイルスは何年かに一度、大きく変異することがあります。インフルエンザウイルスは、元々は鳥だけに感染していた鳥インフルエンザウイルスが、大きく変異して人に感染するようになり、さらに人から人に効率よく感染するように変化して、新型インフルエンザウイルスとなりました。このようにウイルスは変異を続けるため、今後、新型コロナウイルスが世界規模で大流行する可能性も否定できないのです。



自らをコピーする過程の中で
コピーミスが発生し、
遺伝情報が変化。
変異株へと進化します。